



9・10月 講座紹介



申込期間 小・中・義務教育学校 : 7/18(火)~7/27(木)
府立学校 : 7/18(火)~8/1(火)

指標
観点

学習 学習指導 **生指** 生徒指導 **事務** 事務職員

京都 京都ならではの教育 **基本** 基本的資質能力

開始
時間

AM : 10時30分

PM : 13時30分

会場

セ センター **北** 北部研修所

所 各所属校(園) **外** 外部会場

学習 No.428 **集合** 10月2日(月) AM

育ちと学びをつなぐ幼児教育&生活科講座

~幼児教育を踏まえた小学校教育の工夫を目指して~

講師 武庫川女子大学 准教授 藤本 勇二 会場 **北**

幼児理解に基づく質の高い保育について学び、自校の教育に取り入れる視点を持ち、指導力の向上を図ります。また、幼児教育の手法を生活科の指導に生かす方策への理解を深めます。

学習 No.412 **集合** 10月20日(金) AM

最先端科学から学ぶ講座

会場 **外** 京都大学

講師 京都大学大学院

アジア・アフリカ地域研究研究科

京都大学野生動物研究センター

准教授 木下 こづえ

教授 平田 聡

助教 徳山 奈帆子

チンパンジーやボノボなどの動物に関する最新の研究に触れることができます。子どもの知的好奇心を広げる授業づくりにつながる講座です。

学習 No.420 **オンライン** 10月20日(金) PM

中高家庭科講座

~これからの学習評価とICTを活用した授業づくり~

講師 三重大学 准教授 村田 晋太郎 会場 **所**

学習評価を授業設計に生かす重要性について学び、魅力的な授業にするための方策について考えます。校種の接続と内容の系統性を重視した家庭科の授業の在り方を考えます。

学習 No.430 **オンデマンド** 10月23日~11月30日

全国学力・学習状況調査活用講座

会場 **所**

講師 国立教育政策研究所

学力調査官

京都府教育庁指導部学校教育課 担当指導主事

令和5年度全国学力・学習状況調査質問紙の結果に見られる本府児童生徒の状況の理解を図るとともに、国立教育政策研究所の説明動画から学習指導要領に基づいた効果的な授業の在り方を学びます。

学習 No.425 **オンデマンド** **オンライン** 10月10日~10月27日
10月27日(金) PM

総合的な学習の時間・総合的な探究の時間講座

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課

教科調査官 齋藤 博伸 会場 **所**

今、求められている総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間の在り方について理解し、創意工夫あふれる探究的な単元づくりを構想します。

京都 No.602 **集合** 10月24日(火) PM

地域教材を活かした授業づくり講座II

~丹後郷土資料館で学ぶ~

講師 丹後郷土資料館 職員 会場 **外** 丹後郷土資料館

丹後郷土資料館の常設展及び特別展の見学やワークショップを通して、丹後地域の歴史や文化への認識を深めます。また、授業での地域教材の活用について考えます。

生指 No.464 **集合** 9月8日(金) PM

教育相談〈中級〉講座III

~コロナ禍における不登校の理解と支援~【領域③】

講師 天理大学 教授 千原 雅代 会場 **セ**



コロナ禍における不登校支援の在り方や、不登校児童生徒の理解について心理学的視点から学び、関わりについて考えます。

生指 No.467 **eラーニング** 9月13日~10月4日

「今を生きる子どものこころ」講座

~今、あらためて不登校を考える~【eラーニング】

講師 奈良女子大学 教授 伊藤 美奈子 会場 **所**

不登校に至る背景や心情など、不登校をめぐる子どものこころを理解し、寄り添う関わりを学びます。(本講座は8月4日に実施された同講座を動画配信するものです。)

基本 No.303 **オンライン** 9月22日(金) PM

多忙化への対応とセルフマネジメント講座(企業連携)

講師 株式会社ビジネスプラスサポート

人財育成プロデューサー 山田 容子 会場 **所**

「時間の使い方の可視化」と「コミュニケーションの改善」の2つの視点から、時間に対する意識を高め、組織としての時間価値の高い働き方を広い視野から考えます。

事務 No.754 **オンライン** 10月6日(金) PM

学校事務職員パワーアップ講座II

講師 文部科学省総合教育政策局

政策課 企画官 廣田 貢 会場 **所**

学校を取り巻く課題について理解を深めるとともに、事務職員として学校運営に積極的に参画する意識を高め、共同的に解決するための実践力を養います。

全

校種「幼児教育から学ぼう！」



全校種の現行学習指導要領の前文に「**幼児期の教育（及び義務教育）の基礎の上に**」と記され、幼児教育の重要性を強調

幼児教育の現場は、一見すると「楽しそうに遊んでいるなあ」と感じるかもしれませんが、実は、その遊び（学校教育の「学び」に相当）は、教師が準備した遊びではなく、**子どもたち一人一人の思いや願いが込められた遊び**です。その遊びを通して、さらに**興味が増し、やってみたいことを目標とし、それに粘り強く取り組み、工夫する力**が育っていきます。この活動を通して、様々なことを学んでいきます。

この講座では、実践発表や講演・演習を通して、**子どもを見る視点、見取りの仕方、主体性の高め方、そのための環境構成の仕方等、他校種にも生かせる指導のポイント**について学ぶことができました。



東海大学
児童教育学部
寶來生志子 准教授



宇治市立
木幡小学校
中尾佳那 教諭

教師の役割

遊びが充実したものとなるよう個の見取りを丁寧に行い、一人一人の思いや願い、考え方を大切にし、適切な環境構成によって子どもたちの意欲が高まるように自然な形でサポート

子どもが主体的に、様々な対象と直接かかわり学ぶ

友達と共有したり、協力したりして、様々なことを学ぶ

！ 思わずかかわりたくなる環境を準備



どんな環境が子どもの意欲を高めるかな



- 虫に触れる
- 網の使い方を知る
- 捕まえる楽しさを味わう

虫に興味をもつ子がいれば…

教室に虫取り網を立てかける。

！ 他の子に遊びがつながるように仕組む



どんな声掛けをすれば「遊び」がつながるかな



- 捕まえた虫を見せ合う
- 友達と一緒に捕まえる楽しさや協力する良さを味わう

「みて！〇〇さんが捕まえたチョウチョ、きれいやなあ！」

校種を問わず、「個別最適な学び」や「協働的な学び」を支える働きかけのヒントになるね！



！

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに、子ども一人一人の成長を見取り、次の働きかけに生かす



【参考】幼児教育センター：写真で見る！「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）

幼児教育の視点から各校種の教育を考えてみませんか？ 表面「428：育ちと学びをつなぐ幼児教育&生活科講座」を御参照ください。

「言葉」を習得するとき、様々な情報を必要とします。聾学校では、どのように「言葉」を習得させているのでしょうか。

聾学校の実践から言葉の習得の大切さを学ぶ

府立聾学校の小学部・中学部・高等部の授業参観、「聞こえにくさへの理解と支援」についての講義、学校説明と質疑応答により、学校全体の取組を御紹介いただきました。

この講座を通して、聾学校で実践されている「言葉」やコミュニケーションの指導をする際の視点や環境調整等は、障害の有無にかかわらず、どの校種でも参考になるものであると改めて気付くことができました。

！ やってみよう！

次の言葉の口の動きを確認してみてください。

- ・「たまご」と「たばこ」
- ・「9時(くじ)」と「10時(じゅうじ)」



みなさんなら、口の動きが似ている言葉をどのように指導しますか？

！

聾学校の実践：様々な手段・機器を活用して言葉を伝える

目や顔の表情や口元の動きで伝える

手話やジェスチャーで伝える



高等部の授業の様子

モニターに視覚情報を提示

字幕を提示

様々な教材も活用



聴覚障害児童生徒が「学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服する」ために、言葉を覚える手段、コミュニケーションや人間関係を形成するための手段を指導

受講者の感想 障害の有無に関係なく、その子にふさわしい環境調整を！

授業参観では、声の抑揚・表情・手話と、感情表現する手段をフル活用し、心の動きが見えても伝わってきました。

『知っている』『経験したことがある』かどうか理解に影響することは、障害の有無に限らず共通しており、乳幼児期から広く多様な経験（社会生活とのつながり）が重要になってくると感じました。

その子にふさわしい『環境調整・整備』を重視し、主体的に聞く、考える、表現する姿につなげていく（引き出していく）こと、併せて、「分からない」と言える雰囲気（関係）づくり等、物理的な環境だけでなく、人的・心理的環境は大切である。このことは、障害の有無、大人・子ども関係なく、育ち合う環境において欠かせない視点であると思いました。

支援グッズの貸出

特別支援教育部では、支援グッズの貸出をしています。申請方法や物品リストは下記の二次元コードから御確認ください。

スーパーコンパス
くるんパス

